



旭中通信

練馬区立旭丘中学校

学校通信 7月号

令和元年7月1日発行

特別の教科道徳～考え、議論する道徳へ～

校長 渡邊 重幸

6月8日(土)に道徳授業地区公開講座を実施しました。たくさんの保護者・地域の方に授業を参観していただきました。その後の意見交換会でも、練馬区教育委員会 教育指導課指導主事 原 僚平先生にご講義いただき、活発な意見交換を行うことができました。ありがとうございました。

さて、将来の変化を予測することが困難な時代を迎え、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要となりました。そのために必要な資質・能力を養うために、道徳教育はこれまで以上に重要な役割を果たすことが期待されています。そこで、これまでの「道徳の時間」が今年度から新たに「特別の教科 道徳」と位置づけられることとなりました(小学校は昨年度からです)。

道徳教育の目標は、「自己の(人間としての)生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことにあります。この目標を実現するためには、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供が自分自身の問題としてとらえ向き合う、「考え、議論する道徳」への質的な転換を図るため、生徒の実態に応じて、多様な創意工夫を生かした授業づくりを行っています。

例えば、1年生の道徳の授業公開では「他者との関わり」について「思いやり、感謝」を取り上げ授業を行いました。おじいさんに席を譲ったのに「ふざけるな」などといわれた場面を生徒自身のロールプレイを交えながら授業を進めました。何が正しいのか、グループディスカッションを通していろいろな意見が出されました。授業を参観した保護者からは「子供たちの意見がとても思いやりがあり安心しました。心がちゃんと成長していると思いました。」「普段の出来事の中で心にとめておかなければならない『思いやり・規律』という観点での話し合いが必要なんだなああとつくづく感じました。」などの感想もいただきました。

そして、今年度から評価も行います。道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たっては以下の通りです。

- ① 数値による評価ではなく、記述式とします。
- ② 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とします。
- ③ 他の生徒との比較による評価ではなく、生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価(※)とします。
- ④ 学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視します。
- ⑤ 道徳科の学習活動における生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ります。

※個人内評価・・・生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

さらに、道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定には活用しません。

ぜひご家庭でも、いじめの問題や様々な課題について話題にしてください。

＜修学旅行＞



＜道徳授業地区公開講座＞



＜D組移動教室＞



＜部活動の大会等の結果＞

【野球部】

練馬区中学校総合体育大会 3位

【ソフトテニス部】

練馬区中学校総合体育大会
女子団体 3位 (都大会進出)
女子個人(高辻・杉浦) ベスト8 (都大会進出)
男子団体 11位 (都大会進出)

【バスケットボール部】

練馬区中学校総合体育大会 ベスト8

【バレーボール部】

練馬区春季大会 予選 2敗
練馬区中学校総合体育大会 予選 2勝1敗
2位トナリト 1回戦敗退



【バドミントン部】

練馬区春季大会
男子団体 ベスト8
女子団体 優勝
男子ダブルス 3位(ブロック大会出場)
女子ダブルス 優勝・3位
Bブロック春季大会 女子団体 3位
女子ダブルス5位(都大会出場)



東京都春季大会

女子団体 ベスト16

【囲碁・将棋部】

文部科学大臣杯将棋東京大会
Aチーム 4勝1敗 2位
Bチーム 4勝1敗 4位
文部科学大臣杯囲碁東京大会
1勝3敗